



日本統計学会 会報 2015.4.30

No.
163

発行—— 一般社団法人 日本統計学会
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-6 能楽書林ビル5F
(公財) 統計情報研究開発センター内 日本統計学会事務局
Tel & Fax : 03-3234-7738
編集責任— 鎌倉 稔成 (理事長) / 三分一 史和 (庶務理事)
竹内 恵行 (広報理事) / 西埜 晴久 (広報委員)
入戸野 健 (広報委員)
振替口座— 00110-3-743886
銀行口座— みずほ銀行九段支店普通 1466879番

JAPAN STATISTICAL SOCIETY NEWS

目次

- | | |
|--|--|
| 1. 巻頭随筆：統計へのフォローの風…… 舟岡史雄… 1 | 7. 第2回通常理事会・委員会報告…………… 13 |
| 2. 2015年度統計関連学会連合大会のお知らせ(第二報)
……… 坂本 亘・栗原考次・山口和範… 3 | 8. 臨時社員総会報告…………… 17 |
| 3. 第9回日本統計学会春季集会の報告
……… 鎌倉稔成・宿久 洋・足立浩平・
……… 村上秀俊・中村和幸… 8 | 9. 被選代議員会報告…………… 18 |
| 4. Springer Series in Statistics 出版計画の募集について
……… 国友直人… 9 | 10. 修士論文・博士論文の紹介…………… 19 |
| 5. 2014年11月統計検定の成績優秀者…… 鎌倉稔成… 9 | 11. 会員の活動に関する会報記事の募集について
……… 竹内恵行… 21 |
| 6. 統計検定(2014年11月30日実施)合格者の声
……… 国友直人… 10 | 12. 学会事務局から…………… 22 |
| | 13. 投稿のお願い…………… 22 |

1. 巻頭随筆：統計へのフォローの風

舟岡 史雄 (一般財団法人日本統計協会)

信州大学経済学部を定年退職して3年が過ぎた。現在、日本統計協会に勤めている。明治9年創設の協会を発展させるべく、本人は汗をかいているつもりだが、余程ヒマを持って余しているとみられたのか、統計関連の新たな取り組みに引っ張り込まれている。1つは統計検定事業で、準備段階からどっぷり浸かって、かれこれ7年目となる。創設に至る約2年間の会議は決まって夜の会場に席を移して、侃侃諤々、いや喧々囂々、口角泡を飛ばして議論したものだ。2つ目は文部科学省の大学間連携共同推進事業で、「データに基づく問題解決型人材育成に資する統計教育質保証」の長ったらしい事業名称を短縮した、通称 JINSE に申請時から参加して5年目になる。申請書類の検討の際、会議室の使用時間が過ぎたため、探しあぐ

ねてカラオケボックスで議論したのが思い起こされる。歌も唄わず書類を見ている集団に店員はきっと怪しんでいたはずだ。3つ目はオンライン講座(JMOOC)の統計学講座への側面からのサポートで、1年前の開始とこれはまだ新しい。いずれも、これからの統計教育のあり方に深くかわるプロジェクトであり、長年お世話になった統計の世界に、多少とも貢献できるなら嬉しい限りである。

こうした活動に携わってきて、この数年、統計分野に強力なフォローの風が吹いていることを肌で実感する。

統計検定については、受験申込者が初年度(2011年度)の1,222人から倍増のペースで増加し、3年目には4,895人に達した。昨年度は7,968人と

6割増である。開始前にまことしやかに立てた、3年後に5,000人の受験者で収支トントンとの強気の予想が的中したのも、想定外の統計ブームの賜物に他ならない。

JINSEにおいては、統計を広く利用する業界の団体や組織から推薦された役員等のメンバーから構成される外部評価委員会の委員長を務めている。ステークホルダーの立場から社会が求める人材像を提示するほか、事業の進捗状況と計画を定期的に評価し、最終年度に事業全体の評価をする役割である。経団連、日銀、日科技連、アクチュアリー会、製薬工業協会、マーケティングリサーチ協会、大学入試センター等から統計を知悉した錚々たるメンバーに参加していただけたのも、社会にとって統計がいかに有用で重要であるかをこれら業界・組織が深く認識してきたからであろう。

昨秋、日本統計学会はJMOOC公認のNTTグループによるGACCOを通して、「統計学Ⅰ：データ分析の基礎」の講座を提供した。これに併せて、日本統計協会では受講者の学習を助け、統計学への理解者がより多く増えるよう、GACCO初の補助教材として『スタディノート』を編集・刊行した。採算を度外視した安価な提供だったが、GACCOのブログで「統計学講座の補助教材が最強すぎる件」との高い評価を受け、苦勞の甲斐があったと喜んでいる。「統計学Ⅰ」の受講登録者は1万5千人で、GACCOの約40講座のトップは約2万人であるので、「統計学Ⅰ」はトップクラスの人気である。信州大学経済学部で統計学を教えていた時の受講者が150人程度だったので、同規模の学部を100コ合わせた受講者数に相当する。ちなみに、この3月から開講した総務省統計局による「社会人のためのデータサイエンス入門」は「統計学Ⅰ」を3割程度上回るペースで推移しているので、GACCOの講座のトップに並ぶ勢いである。幸い、スタディノートの売れ行きもAMAZONの瞬間売上トップを記録するなど上々である。オンライン講座の威力に驚くと同時に、統計教育のこれからの方向を示唆するものと感じている。

こうした統計人気の背景は言うまでもない。1つは、1990年代から世界的な潮流となりつつあった、証拠に基づいた意思決定（evidence based decision making）が近年、世の中に定着してきたことであり、この10年では統計の重要性を語る上での殺し文句ともなっている。10数年前に統計審議会では行政側と議論を戦わせた頃とは様変わりである。もう1つは、ビッグデータの活用の広がりや深化である。ハル・ヴァリアンの「今後10年間で最もセクシーな仕事は統計学者である。」との有名な言は、グーグルの成功物語と相まって統計学の修得を強力にプッシュした。とどめは、西内啓『統計学が最強の学問である』が統計分野では異例のベストセラーになり、日本において統計を学ぶ意欲をかきたてた。

統計に吹く追い風を今後も継続させるために、統計教育に携わっておられる先生に是非お伝えしたいことがある。JINSEの外部評価委員会では、この3月まで2年半をかけて、社会が求める人材像を議論し、その視点に立って大学における統計教育の評価を試みた。当初の議論では、「大学教育に特段求めることはない、組織に必要な知識・スキルはあらためて教育する。」が支配的だった。議論を深める中で、社会にとって有為な人材を大学が送り出すことの必要性が共通の認識となり、そのための教育のあり方に関する議論へと展開した。統計教育について掻い摘まんでいえば、「統計学は現実の課題の解決に役立つ学問であるにもかかわらず、教育の場で実際例を扱った授業の展開はあまり多くないようである。大学教員が実務の世界との接点をもっと密にして、実際データを現場から教育の場に持ち込んで授業する方向を強めることが望ましい。」、「大学における初年次と学部専門と大学院前期の統計教育の達成目標は当然異なってしかるべきである。しかしながら、多くの大学の現状は大学院教育を平易にしたのが学部専門教育で、さらに平易にしたのが初年次教育となっている。各段階での明確な目標設定の下で統計教育が的確に実施されれば、段階ごとの目標を獲得した修了生に対する社会の見方は少しずつ変

わっていくことが期待される。」との意見に集約される。統計にフォローの風が吹いているこの時

期に、統計教育が大学教育の先鞭を切って社会から評価される方向で革新されることを願っている。

2. 2015年度統計関連学会連合大会のお知らせ（第二報）

2015年度統計関連学会連合大会

運営委員会委員長 坂本 亘（岡山大学）

実行委員会委員長 栗原 考次（岡山大学）

プログラム委員会委員長 山口 和範（立教大学）

今回で14回目になる2015年度統計関連学会連合大会について進捗状況をご報告いたします。今大会も統計関連学会連合に属する全ての学会の共催により開催する運びとなりました。岡山大学津島キャンパスが大会会場となっております。本大会の1日目（9月6日（日））はチュートリアルセッションと市民講演会を開催いたします。一般講演などは2日目以降（9月7日（月）～9日（水））に開催します。懇親会は、例年より1日早い、9月7日（月）の夕方に、日本のエーゲ海と呼ばれる「牛窓」にて行います（牛窓までは、バスで送迎します）。ホテルや地域の皆さんのご協力で、地元の食材を使った料理を提供します。岡山の地酒や料理にあったワインもご用意しています。また、今回の懇親会は、新たに「エクスカッション」を企画します。牛窓地域の散策や、瀬戸内海のヨットクルーズのプランを検討しています。是非ご参加下さい。（例年と日程が異なりますのでご注意ください）。

この第二報では、チュートリアルセッション、市民講演会、企画セッション、コンペティションセッションなどの概要を項目ごとにご紹介いたします。今後、連合大会のウェブページ <http://www.jfssa.jp/taikai/2015/> に関連情報や詳細情報を随時掲載していきますので、ご覧ください。

1. 大会日程 開催場所 各種受け付け期間

開催日程：9月6日（日）から9日（水）までの4日間

9月6日（日）：チュートリアルセッションと市民講演会（岡山大学創立五十周年記念館）

9月7日（月）～9日（水）：本大会（岡山大学津島キャンパス一般教育棟）

共催：応用統計学会、日本計算機統計学会、日本計量生物学会、日本行動計量学会、日本統計学会、日本分類学会、統計教育大学間連携ネットワーク

懇親会：9月7日（月）ホテルリマーニ（瀬戸内市牛窓町）

講演申し込み：5月8日（金）9：00～6月5日（金）17：00

報告集原稿提出：6月10日（水）9：00～7月1日（水）17：00

事前参加申し込み：7月13日（月）9：00～8月17日（月）17：00

2. 講演の申し込み

講演には次の種類があります。

- ・一般講演
- ・企画セッション講演
- ・コンペティション講演

申し込み方法は、すべての講演に共通の事項と種類ごとに異なる事項があります。ご注意ください。

（1）すべての講演に共通の事項

講演をご希望の方は、上記ウェブページからお申し込みください。これ以外の申し込み方法はありません。ウェブページ上で、「一般講演」、「企

画セッション講演」,「コンペティション講演」のいずれかを選択してください。原則として、講演者が申し込んでください。ただし、「企画セッション講演」については、オーガナイザーが申し込んでください。

(2)「一般講演」に関わる事項

通常の講演は「一般講演」として講演者がお申し込みください。ウェブページ上の講演申し込み手順にしたがって申し込みをしてください。プログラム編成の際の参考にしますので、最大3個までのキーワードを、重視する順にご選択ください。また、講演者(連名講演者を含む)のうち、少なくとも1名は共催6学会のいずれかの会員であることが要件です。

(3)「企画セッション講演」に関わる事項

各セッションのオーガナイザーが、セッション内の講演全件をお申し込みください。たとえば、セッション内に5件の報告がある場合、それぞれの報告を1つずつ、計5件をオーガナイザーがお申し込みください。これによって、当該の企画セッション内のおおの講演の原稿が1件の報告として報告集に掲載されることになります。その点にご注意ください。

(4)「コンペティション講演」に関わる事項

コンペティション講演は、研究内容とプレゼンテーションの能力を競う企画で、今回で12回目を迎えます。参加資格は、以下のいずれかの条件を満たす方です。

- (a) 2015年4月1日時点で30歳未満の若手研究者(博士後期課程院生をふくむ)
- (b) 講演時に学部学生や修士課程(または博士前期課程)院生(年齢は問いません)

連名講演の場合、コンペティション対象者は事前に登録された実際に口頭発表する方で、講演の申し込み時点で共催6学会のいずれかの会員である必要があります(ただし、申し込みと同時に入会手続きする方もふくみます)。審査は、数名の

審査委員による5段階評価にもとづく投票で実施する予定です。選考はプログラム委員会で行います。審査では、研究内容とともに、研究発表のプレゼンテーションについても評価します。発表者が十分に準備・工夫し、充実したプレゼンテーションであることを期待しています。原則として、最優秀報告者1名、優秀報告者3名程度を選考します。コンペティションセッションは9月7日・9月8日に開催し、9月8日の夕刻に表彰式を行う予定です。

3. 講演報告集用原稿の提出

(1)「一般セッション講演」,「コンペティション講演」に関わる事項

報告集用の原稿はA4サイズで1ページです。インターネット経由で電子ファイル(PDF形式)を提出していただきます。「1. 大会日程、開催場所、各種受け付け期間」を参照の上、原稿提出期間を厳守してください。

(2)「企画セッション講演」に関わる事項

オーガナイザーが集約してご提出ください。書式・提出期間等は、上記(1)と同じです。セッション内のすべての講演について1つずつ別々にオーガナイザーが原稿を提出してください(「2. 講演の申し込み(3)「企画セッション講演」に関わる事項」参照)。オーガナイザーが期限内に原稿を提出できるようなスケジュールで、企画セッション講演者に原稿を依頼してください。

(3) すべての講演に共通の事項

いずれの種類の講演についても、ご希望の方は、報告集用原稿とは別に、ウェブページに掲載する詳細論文を受け付けます(A4サイズ、最大10ページまで、PDF形式、ファイルサイズは1MB以内、フォント埋め込み)。論文ファイルをメールによりプログラム委員会宛 submission2015@jfssa.jp にお送りください。報告集用原稿および詳細論文の執筆要領につきましては、連合大会ウェブページ(<http://www.jfssa.jp/taikai/2015/>)をご覧ください。

ださい。

(4) その他

講演報告集は大会当日にお渡しします。

【注意】

報告集は、本大会ウェブページにて期間限定で公開予定です。公開を希望しない場合には、報告集用原稿の提出時に、その旨をご指示ください。

4. 企画セッションのご案内

学会や個人から申請のあった21件の企画セッションが予定されております。テーマとオーガナイザーのお名前、ご所属は以下の通りです。テーマのねらいや講演者・講演タイトルなどにつきましては連合大会のウェブページをご覧ください。なお、企画セッションの運営はオーガナイザーに一任しておりますので、企画セッションについてのご質問がございましたら、直接オーガナイザーにお問い合わせくださいますようお願いいたします。企画セッションの日程はプログラム作成時に決定いたします。

企画セッション名とオーガナイザー（敬称略）

- (1) 超高頻度データ解析と計算統計 内田雅之（大阪大学）
- (2) 応用統計学会学会賞受賞者講演 大西俊郎（九州大学）・井元清哉（東京大学）
- (3) 統計的従属性モデリングの理論と応用 増田弘毅（九州大学）
- (4) 公的統計におけるデータ利用の新たな展開 小林良行（総務省統計研修所）
- (5) 日本計量生物学会シンポジウム「適正な医学研究の推進と発信に向けて」 手良向聡（京都府立医科大学）・大森崇（神戸大学）
- (6) 日本計量生物学会奨励賞受賞者講演 大森崇（神戸大学）
- (7) 日本統計学会会長講演および各賞授賞式 鎌倉稔成（中央大学）
- (8) 日本統計学会各賞受賞者記念講演 鎌倉稔

成（中央大学）

- (9) 日本計量生物学会ワークショップ：プロの生物統計家のための行動基準を考える教育プログラム 佐藤恵子（京都大学）・和泉志津恵（大分大学）
- (10) スポーツにおけるビッグデータの活用 酒折文武（日本統計学会スポーツ統計分科会，中央大学）
- (11) 日本分類学会シンポジウム：コレスポンデンス分析・Dual Scaling・数量化理論再考 今泉忠（多摩大学）
- (12) 医学分野でのシミュレーションの応用 弘新太郎（ファイザー株式会社）
- (13) CSA-KSS-JSS joint international session I: Recent Developments in Biostatistics Yuan-chin Chang (Academia Sinica)・Donguk Kim (Sungkyunkwan University)・塚原英敦（成城大学）
- (14) CSA-KSS-JSS joint international session II: Machine Learning and Its Applications Yuan-chin Chang (Academia Sinica)・Donguk Kim (Sungkyunkwan University)・塚原英敦（成城大学）
- (15) CSA-KSS-JSS joint international session III: Statistical Methods in Finance Yuan-chin Chang (Academia Sinica)・Donguk Kim (Sungkyunkwan University)・塚原英敦（成城大学）
- (16) アジアの公的ミクロ統計の活用 馬場康維（統計数理研究所）
- (17) 大学教育の質的改革 I—入試改革・反転授業とアクティブラーニング— 竹内光悦（統計教育委員会委員長，実践女子大学）・藤井良宜（統計教育分科会主査，宮崎大学）・渡辺美智子（慶應義塾大学）
- (18) 大学教育の質的改革 II—知識基盤社会におけるデータサイエンス教育の展望— 竹内光悦（統計教育委員会委員長，実践女子大学）・藤井良宜（統計教育分科会主査，宮崎大学）・渡辺美智子（慶應義塾大学）

- (19) 自然科学へのデータ駆動型アプローチ 福水健次（統計数理研究所）
(20) ソフトウェア・デモンストレーション
(21) Wakimoto Memorial Session（CIPS-JSS-KSS International Session for Young Scholars）塚原英教（成城大学）

5. チュートリアルセッションのご案内

下記の2つのテーマでチュートリアルセッションを開催します。2つの会場で並行して開催しますので、どちらかをお選びください。参加費については「7. 参加申し込みと大会参加費」をご覧ください。

日時：2015年9月6日（日）13：00～16：00

場所：岡山大学創立五十周年記念館

テーマ1：統計データの新しい利活用方法

講演者：西村 正貴（（独）統計センター）、山田利美（（独）統計センター）他

時間：13：00～16：00（3時間）

開催趣旨：独立行政法人統計センターでは、統計データの利活用を促進するため、総務省統計局と協力し、統計におけるオープンデータの高度化の取り組みを進めており、昨年度、政府統計の総合窓口（e-Stat）の新機能としてAPI機能及びGIS機能（地図による小地域分析）の提供を開始した。API機能は、e-Statに登録されているデータをプログラムなどから自動的に取得できるなど、これまでのデータ収集の方法を大きく変える機能となっている。

また、新しいGIS機能（地図による小地域分析）は、利用者の保有するデータをシステムに登録し、国勢調査の小地域集計結果などと組み合わせることで地図上で表示できるなど、地図を使用した新たな分析が可能となっている。本チュートリアルでは、上記二つの機能の概要を説明するとともに、具体的な使用方法、分析事例などを紹介する。

テーマ2：スパース推定と統計解析

講演者：川野秀一（電気通信大学）

時間：13：00～16：00（3時間）

開催趣旨：スパース推定とは、統計モデルに含まれる不要なパラメータの値を0と推定することにより、パラメータの推定と変数選択を同時に行う統計的推定法である。工学、生命科学、医学などの様々な分野で成功を収め、いまなお著しく理論面、応用面ともに発展を遂げている統計手法である。本チュートリアルセミナーでは、スパース推定を勉強してみたい方に、スパース推定に関する基本的な事柄と最近の発展について概説する。セミナー前半部分では、まず正則化法から解説し、lasso推定法をはじめとした様々なスパース推定法をできる限り紹介する。後半部分では、スパース推定の推定値を得るための計算アルゴリズムについて解説する。なお、本セミナーでは、推定量の一致性などの理論的性質についてはほとんど触れない予定である。

6. 市民講演会のご案内

今年の市民講演会は「ビッグデータ・インパクト—新たなデータ活用がもたらす世界—」というテーマで、ビッグデータの活用の実態を身近な事例を通じて市民の方々に知っていただくことを目的として企画しました。参加費は無料です。

日時：2015年9月6日（日）16：30～18：00

場所：岡山大学創立五十周年記念館

題名：ビッグデータ・インパクト—新たなデータ活用がもたらす世界—

講演者：木村治生（ベネッセ教育総合研究所）、安松幹展（立教大学）

講演は2部構成になっており、1つ目の講演が教育に関わる話題で、2つ目はスポーツ、特にサッカーにおけるデータ活用の話です。

最初の講演では、岡山に由来のあるベネッセ教育総合研究所の木村治生に教育におけるデータ活用の話をさせていただきます。木村氏はこれまでPISAや文部科学省の全国学力・学習状況調査結果の解説など幅広く活躍されている研究者です。

様々な情報の活用が可能である教育の現場の実情と今後について講演される予定です。

2つ目の講演者は、立教大学の安松幹展氏です。安松氏は、日本サッカー協会公認A級コーチの資格を持ち、日本フットボール学会理事、日本サッカー協会指導者養成部会メンバー、日本サッカー協会フィジカルフィットネスプロジェクトメンバー、アジアサッカー連盟コーチインストラクターなどを務め、研究者としてまた指導的实践者として活躍されています。いまサッカー界では、トラッキングデータの活用が話題となっています。今回の講演では、トラッキングデータの活用についてその最先端についての話をさせていただく予定です。

お二人の講演の詳細については、連合大会のホームページに掲載いたします。共催学会の会員の方以外でも自由に参加できる講演会です。お誘い合わせの上、多くの方の参加をお待ちしております。

7. 参加申し込みと大会参加費

当日受け付けの混雑を緩和するため、ウェブページからの事前申し込みにご協力ください。受け付け期間については「1. 大会日程、開催場所、各種受け付け期間」を参照してください。事前申し込みの場合、参加費が大幅に割引になりますのでぜひご利用ください。

大会参加費（報告集代を含む）

事前申し込み	当日受け付け
会員（共催6学会の会員）	
7,000円	10,000円
学生（会員・非会員を問わず）	
3,000円	8,000円
学生以外の非会員	15,000円
	20,000円

チュートリアルセッション参加費（資料代を含む）

事前申し込み	当日受け付け
会員（共催6学会の会員）	
3,000円	4,000円

学生（会員・非会員を問わず）

2,000円 4,000円

学生以外の非会員

6,000円 8,000円

懇親会参加費

事前申し込み（当日受け付け）

一般（会員・非会員を問わず）

7,000円 (8,000円)

学生（会員・非会員を問わず）

4,000円 (5,000円)

【注意】

- (1) 講演申し込みをされた方も参加申し込みの手続きが必要です。
- (2) これまでの大会と同様に、事前申し込みのキャンセルと変更は認めません。大会に参加されなかった場合、報告集などの資料を後日送付いたします。
- (3) 共催6学会の会員以外の方が、企画セッションや特別セッションでオーガナイザーから依頼されて講演される場合、大会参加費は無料となります。
- (4) 市民講演会は無料です。
- (5) 会場および日程の都合により、懇親会は事前申し込み制としますのでご注意ください。収容人数に余裕がある場合に限り、当日受け付けを行います。

8. 宿泊・アクセス案内

今大会では宿泊の斡旋はいたしません。大会会場となります岡山大学津島キャンパスへは、岡山駅西口バスターミナル22番乗り場から【47】系統「岡山理科大学」行きに乗車、「岡大西門」で下車（所要時間10分）、徒歩3分です。

http://www.okayama-u.ac.jp/tp/access/access_4.html

なお、本大会開催中は、午前のセッションに合わせてバスターミナル22番乗り場から岡山大学津島キャンパス間へノンストップの臨時バス「岡山大学（臨時）」を運行する予定です。

3. 第9回日本統計学会春季集会の報告

鎌倉 稔成（日本統計学会理事長）

宿久 洋・足立 浩平・村上 秀俊（企画・行事担当理事）

中村 和幸（実行委員長）

標記の集会が2015年3月8日（日）に明治大学中野キャンパス（東京都中野区）で開催されました。今回の集会では、1つの特別セッション、4つの企画セッションとポスターセッションが企画され活発な議論が交わされました。

午前の特別セッションは「物理学と統計学の接点：新潮流と展望（オーガナイザー：樋口知之氏、統計数理研究所）」というテーマで行われました。このセッションは、文部科学省科学技術試験研究委託事業「数学・数理科学と諸科学・産業との協働によるイノベーション創出のための研究促進プログラム（数学協働プログラム）」と共催の形で実施され、4つの講演が行われました。

ポスターセッションは昼休みをコアタイムとして開催され、学部生、大学院生、若手研究者が30件の発表を行いました。コアタイムの前にはポスター発表者同士がお互いに説明し合い、発表者同士の交流がありました。また、コアタイムでは、来場者との熱心な議論により有意義な研究交流がなされました。優れたポスター発表に贈られる優秀発表賞は栗栖大輔氏（東京大学）、菅澤翔之助氏（東京大学）、矢部竜太氏（一橋大学）の三名に、学生優秀発表賞は嶋村海人氏（中央大学）、土田潤氏（同志社大学）の二名に授与され、懇親会において国友直人会長より表彰されました（氏名は五十音順）。

午後は2つのセッションを並行し合計4つのセッションが実施されました。以下にオーガナイザーとセッション名を挙げます。竹村彰通氏（東京大学）「統計教育大学間連携ネットワークの活動を基にした統計学教育の新たな制度設計」、内田雅之氏（大阪大学）「確率過程の統計モデリングと超高頻度ビッグデータ解析への応用」、鈴木大



ポスターセッション優秀発表賞受賞者、学生優秀発表賞受賞者と中村審査委員長、国友会長

慈氏（東京工業大学）「スパース・低ランク推定手法による高次元データ解析」、前園宜彦氏（九州大学）「カーネル型推定と関連する話題」。

セッション終了後、同大学にて懇親会が開催され、セッションの議論の続きや会員相互の親睦・情報交換を行うことができました。なお、集会と懇親会の参加者はそれぞれ190名（154名）と60名（70名）でした（カッコ内は昨年度実績）。ポスター発表の授賞式が懇親会の席で行われることもあり、例年通り多くの学生の参加者がありました。

春季集会は単一セッション、もしくは2つの並行セッションで構成されていますので、じっくりと研究発表を聞くよい機会となっており、今回の春季集会も多くの方の発表者、参加者に恵まれました。お陰様で盛会のうちに終了することができました。最後に、本集会を成功裏に導いて下さった方々に感謝を申し上げます。次年度の春季集会は東北大学で開催予定です。春季集会では会員の皆様からのご提案をお待ちしています。

春季集会 URL：

<http://www.jss.gr.jp/ja/convention/spring/09/JSSspring2015.html>

4. Springer Series in Statistics 出版計画の募集について

出版企画委員会 JSS-Springer 小委員会 国友 直人（東京大学）

1. **経緯**：Springer 社より「Springer Series in Statistics」に日本統計学会シリーズ（JSS-Series）を刊行する提案があり，日本統計学会では2014年3月7日の社員総会を経て JSS-Springer 委員会が発足し，英文書籍の出版を行っています。

2. **出版形態**：学術誌に掲載する論文とは異なり「日本統計学会の名称を使う英語刊行物シリーズ」であり，1冊50頁～125頁程度の小冊子（講義録，1本の論文には収まらない小規模の書籍など），2015年より出版を開始しています。

Springer 委員会による提案審査の後，原稿の扱いなど具体的な出版作業については Springer 社が行います。Springer 社は冊子体と e-Book 体で公刊する予定ですが後者に力を入れています。

長所としては論文としてはページ数が多すぎる場合や講義録，あるいは日本語の大部でない書籍のほぼ翻訳などが想定でき，Springer の出版物として世界中の図書館・研究所に配信されます。

3. **条件**：書籍としての原稿料は250ユーロ（別に日本統計学会に150ユーロ）であり，e-Book 形式で世界中の図書館・研究機関に配信される予定です。

4. **実績**：「JSS Research Series in Statistics」の第1冊目として

Kohei Ohtsu, Hui Peng, Genshiro Kitagawa (2015) Time Series Modeling for Analysis and Control: Advanced Autopilot and Monitoring Systems, Springer

の電子版が Springer より先日リリースされました。

5. **募集**：引き続き書籍の提案を募集しています。出版を希望される著者は情報（著者，タイトル，アブストラクト，可能なら目次，など）の情報を準備する必要があります。（サンプル Chapter の作成や原稿の準備にはかなりの時間がかかることが予想されますので，早めに提案することが望ましいと思われます。）

なお書籍の内容は統計学に関連する幅広い分野を扱っていますが，2015年4月現在の編集委員は国友直人，竹村彰通（共同責任者），北川源四郎，樋口知之，吉田朋広，狩野裕，濱崎俊光，松井茂之，岩崎学です。連絡先は学会事務局（e-mail: shom@jss.gr.jp）です。出版を希望される会員のご連絡をお待ちしています。

5. 2014年11月統計検定の成績優秀者

鎌倉 稔成（日本統計学会理事長）

2014年11月30日に第5回目の統計検定が6試験種別で行われました。以下に，各試験種別の合格者のうち，成績優秀者でかつ公開に同意された方々の氏名を掲載します。掲載は姓の五十音順です。また以下の情報は統計検定のホームページでも公開しております。

1級（（ ）は選択した応用分野）

最優秀成績賞（S）：上原雅俊（社会科学），河田祐一（医薬生物学），沢村敬太（理工学），高須佑哉（理工学）

優秀成績賞（A）：神戸之法（理工学），島谷哲史（医薬生物学），永松優一（理工学），萩原康博（医薬生物学），山田洋一（人文科学）

2級

最優秀成績賞（S）：石川大地，石阪修吾，伊藤美希，懸樋亮一，小原翔太，芝本陽太郎，平良星斗，滝川雅也，谷口裕明，日暮菜雄，平野貴弘，北條春輝，牧田洋一，松尾総一郎，水間浩太郎，山村駿介

優秀成績賞（A）：浅野 豊，荒瀬晃介，池田悠，石川法夫，石島恵太郎，石田隆行，泉克馬，伊藤卓也，江森健人，大川祐司，大原晋吾，岡本祐二，小田剛史，賀子宏和，片寄直紀，神戸之法，菊竹智恵，久保貴子，小池憲政，小滝隆乃佑，斉藤 高，斉藤民也，阪田隆司，澁谷朋樹，清水啓介，下木健太，鈴木貴之，住井 嵩，高橋 幹，高橋 巧，高橋秀征，玉井智貴，田村百合絵，為本浩至，寺石日向，中本裕之，根本大輔，萩原洋一郎，比留川雄介，福升悠一，舩田明寛，松田和也，丸山翔悟，水野博太，三津田悠，八代正俊，山口有貴，山口雄大，山崎隆一，山田一貴，山本昌広，漁野有紀

3級

最優秀成績賞（S）：石井壮平，久保田良平，熊谷朋之，栗田隆介，鈴木宏一，須永健一，土屋いずほ，富山幸一，西岡心大，平田 卓，深谷

薫，水間浩太郎

優秀成績賞（A）：青山泰規，阿部雅人，市川聡，伊藤史也，猪股百華，岩本隆史，江本真理子，小川恭一，小沼翔大，小野泰輔，小暮泰大，小林大敏，小山瑞希，近藤洋平，酒井裕晃，塩川敬史，那須信之，野島崇範，橋本真吾，長谷拓也，檜森則克，藤宮龍祥，藤森 敦，牧野理樹，矢澤一彦

4級

最優秀成績賞（S）：井上典之

優秀成績賞（A）：太田一果，塩入紀明，澁川太郎，土谷裕一

統計調査士

優秀成績賞（A）：岩屋さおり，川原靖雄，久我和也，鈴木裕史，滝本恭司，仲条 仁，戸松 暁，萩生将丈，平尾 大，本田豊輔，山野宏太郎

専門統計調査士

優秀成績賞（A）：今井紀子，滝本恭司，張 亦馳，中村由佳，山野宏太郎，渡邊 明

6. 統計検定（2014年11月30日実施）合格者の声

国友 直人（日本統計学会会長）

統計検定（2014年11月30日実施）の合格者よりいただいた声を掲載します。

1級（理工学）合格・2級合格

統計の知識を身につける第一歩になればと思い、受験しました。

神戸 之法さん（京都大学大学院 理学研究科）

私は、物理学や統計学の勉強をしている人のブログによって統計検定を知りました。

統計学には興味があったので、学習するいい機会だと思い、受験することにしました。

私の場合は、まず基礎から勉強する必要性を感じたので、学部1，2年生用の確率統計の教科書を一通り読むことから始めました。その後に，2級の過去問を解きつつ，実際に計算ができるように練習しました。

1級については，学部3，4年生用の教科書と公式のテキストである『統計学』を読みながら，該当する項目の過去問を解きながら理解を深めました。

1級，2級の両方の学習をしていく中で，2級の範囲の知識を正しく理解しておくことが，1級

の範囲の学習の理解に繋がると感じました。

私にとって、1級の範囲は、知らない知識や発想に満ちていて、とても楽しく学ぶことができました。さらに統計応用は、私が受験した理工学以外にも、人文科学、社会科学、医学生物学などの様々な分野があり、統計学の応用範囲の広さと、実用性を感じ、受験を通じて統計学への興味が更に大きくなりました。

1級、2級とも優秀成績賞を頂いたとはいえ、まだまだ習得できていない領域が沢山ありますので、これからも統計学の学習を続けていきたいと思っています。

統計検定を受験することは、私にとって統計学を学習する良いきっかけになったと思います。

2級合格

力試しに受けてみようと思いました。

寺石 日向さん（青山学院大学経営学部経営学科3年）

統計検定は先生の授業での紹介で知りました。最近統計学が注目されていることもあり、興味を持っていたのに加え、ゼミでデータの分析を行っているので力試しに受けてみようと思いました。自分のレベルにあっていると思う2級を受けることに決めました。

統計の授業は取っていなかったため、勉強は基礎から始めました。どういうふう勉強したらいいのか全く分からなかったので、本屋へ行き日本統計学会公式認定の統計検定2級対応の本を買って勉強しました。しかし基礎がまだ出来ていなかったため、理解するのは難しくわからない部分は先生に教わったり、ゼミの仲間に聞きながら勉強を進めていきました。この本で大枠の部分は理解できましたが実際の試験ができるのか不安だったので過去問を買いどのような問題が出るのか頭に入れながら解いていきました。これもわからないところは周りに助けてもらいながら勉強を進めることができました。統計検定2級の勉強に費やした時間はだいたい1か月くらいでした。

実際に2級を受けてみると思っていたよりも難

しく、自分が思っていたほど正答率は高くなく、少し悔しい思いをしました。正直受かっているのか不安でした。しかし結果を見るとAランクで合格を頂くことができ素直にうれしかったです。問題を見る限り2級と1級のレベル差が大きいので、来年は準1級ができるみたいなのでまずはそれに向けて勉強したいと思っています。大学卒業までに最終的には1級が取れるレベルになりたいと思っています。

2級合格

統計の知識を習得できればと考え、受験を決意しました。

大原 晋吾さん（中部電力 情報システム部）

私は電力会社でデータ活用・分析に関連する情報インフラの企画業務に従事しています。現在、電力会社では、今後の環境変化を見据え、既に社内存在する多種多様なデータやスマートメーターなどから取得されるビッグデータを分析し、お客さまへの付加価値向上や業務効率化に繋げることが今まで以上に求められています。そんな中、職場の先輩からの紹介で統計検定の存在を知り、これから一層重要性が増す統計の知識を習得できればと考え、受験を決意しました。

試験に向けた準備として、職場の先輩が企画してくれた統計検定の勉強会に参加しました。勉強会は1回1時間程度で週2回、試験前の1ヵ月間に実施しました。勉強会はただ聴講するだけではなく、参加者全員でお互いの疑問点をディスカッションしました。自分の理解を説明する機会を通して、知識が自然と定着したように思います。

また、個人的な学習では、問題集をとにかく繰り返し解きました。問題を解くことで理解が曖昧なポイントを洗い出し、それを勉強会でディスカッションしたり、定義を掘り下げて調べるなどして、コツコツと理解を深めました。勉強時間は「始業前に30分」、「会社帰りに30分」など、短くとも毎日問題集に取り組む時間を作りました。最初はまとまった時間がある日に勉強していましたが、毎回それまでの勉強内容を思い出すのに苦労

したため、途中から毎日取り組むことを意識しました。

今回、統計検定の勉強を通して習得した統計の基礎知識は、これからデータ活用・分析に携わる人にとって、知っていて当たり前の「共通言語」の様な存在になると考えています。今後は、実際の案件を通して、身に付けた知識をより実践的な力に強化していきたいと思います。

3級合格

学んだ知識が自分の自信につながるということを体感しています。

野島 崇範さん（株式会社プラスアルファ）

NHKの「プロフェッショナル仕事の流儀」という番組でマーケティングとして紹介されていたユニバーサル・スタジオ・ジャパンの森岡毅さんが「数字に熱を込めろ」と今までに見たことのない数式を使いながら、集客予測を見事に的中させていく映像を見た瞬間、衝撃が走った。

大学まで数学の教員になろうと考え、教育大学で線形代数学などの高校数学を越えた分野を学んでいたものの、その数式は見たことがなかった。

後に、その数式が統計学の一部であることを知り、業界誌の連載でお世話になっていた編集長に「10冊、統計学に関する書籍を紹介してください！」と連絡した際、「10冊読む気があるなら、4級、3級同時受験しては？（笑）」と統計検定の存在を教えて頂いた。その場で、直ぐにAmazonで検索して、「資料の活用」・「データの分析」・「統計学基礎」の2級～4級に対応した書籍を購入。さらに3級と4級の統計検定に申し込んだ。

受験までの2ヶ月半の間に、出張の移動時間の空き時間に書籍を熟読。読んだ後に、統計検定のホームページから過去問題をダウンロードして1度問題を解いた。

また、今回は受験できなかった「統計学基礎」の書籍を流し読みしながら、USJの森岡さんが使用していた数式に近いものが含まれていたことを発見した。

3級で学んだ相関係数に関しては、既に仕事で使用して、学んだ知識が自分の自信につながるということを体感している。

受験に対する目標は、統計検定1級に合格することと、相関係数のように学んだことを日々の業務に活かし、取引会社のお客様の集客向上につながるお手伝いが、より一層精度高くできるようになることである！

統計調査士合格

統計の勉強をすることは、論理的思考を鍛えることにつながると思います。

本田 豊輔さん（会社員／中小企業診断士）

仕事で経営環境分析やマーケティング・アンケート調査を行うようになり、統計を使う機会ができたため、勉強を兼ねて統計検定を受験しました。数学が大の苦手で統計検定2級は全く力及ばずでしたが、統計調査士は公的統計の知識を整理し身に着けるには大変よいと思いました。

私は、仕事での統計や数字の使い方は主に2つあると考えています。1つは数字によってより客観的な根拠を示すこと（実証的な使い方）、もう1つは、数字からこれまでに気付かなかった課題を見つけること（仮説構築）です。

どちらの場合も、数字がとられた背景やその限界・範囲を理解していないと、説得力に欠けたり、もっともらしい数字で（意図せずとも）相手を騙したりすることにつながることがあります。

統計調査士の勉強を通して、統計調査の背景や実施方法・考え方を知することは、そうしたことを避けるだけでなく、より柔軟な統計データの活用につながると感じました。

また、統計を実務で使わない人にとっても、統計の勉強をすることは、論理的思考を鍛えることにつながると思います。統計リテラシーを高めることは報道や外部からもたらされる、間違った（時には悪意のある）統計データの使い方に惑わされず、本質を見抜く力を身に着けることにつながるはずです。それはビジネスにおいて最も重要なスキルの1つと言えます。

統計の知識やスキルは使わなければ落ちていく
ものですし、常に変化するものなので、引き続き

勉強に励みたいと思います。

7. 第2回通常理事会・委員会報告

第2回通常理事会

日時：2015年1月31日（土曜日）12：00～13：00

場所：統計数理研究所八重洲サテライトオフィス

理事の総数 12名 出席理事の数 10名

監事の総数 2名 出席監事の数 2名

出席者：

理事：国友直人会長、鎌倉稔成理事長、三分一史和（庶務）、酒折文武（庶務）、大野忠士（会計）、西山陽一（会誌編集・欧文）、谷崎久志（会誌編集・和文）、竹内恵行（広報）、勝浦正樹（大会）、中野純司（国際）

（以上10名、カッコ内は役割分担）

監事：竹村彰通、矢島美寛

<第1議案> 2015年度事業計画について

鎌倉理事長より、資料に基づき、2015年度事業計画について提案があり、一部修正の上了承された。

<第2議案> 2015年度予算について

鎌倉理事長より、資料に基づき、2015年度予算について提案があり、大野会計担当理事による補足説明の後に協議し、了承された。

<第3議案> 会員の入退会

鎌倉理事長より、回収資料に基づく入退会者が紹介され、承認された。

委員会

日時：2015年1月31日（土）13：00～14：20

場所：統計数理研究所八重洲サテライトオフィス

出席：国友直人会長、鎌倉稔成理事長、三分一史和、酒折文武、大野忠士、西山陽一、谷崎久志、竹内恵行、勝浦正樹、中野純司、塚原英敦、竹

村彰通（監事）、矢島美寛（監事）

<報告事項>

1. 欧文誌委員会

西山委員長より、Vol.44, No.2（2014年12月発行予定）が近日中に発行されることが報告された。

2. 和文誌委員会

谷崎委員長より、第44巻2号（2015年3月発行予定）の進捗状況などについて報告があった。

3. 大会委員会

勝浦委員長より、資料に基づき、2015年度統計関連学会連合大会に関する報告があった。

4. 企画・行事委員会

宿久委員長の代理で三分一庶務理事より、資料に基づき、第9回日本統計学会春季集会について準備状況の報告があった。

5. 庶務委員会

三分一委員長より、研究部会の応募状況について報告があった。

大野委員より、75周年記念事業資金移管の完了について報告がなされた。

6. 広報委員会

竹内委員長より、学会WEBページのデザイン修正についての報告があった。

7. 国際関係委員会

なし

8. その他

なし

なし.

＜審議事項＞

1. 欧文誌委員会

西山委員長より，Euclid から加入何いの連絡が来たが，審議の結果今回は見送ることが決定した。

2. 和文誌委員会

なし.

3. 大会委員会

勝浦委員長より，連合大会での企画セッションとして，会長講演1つ，各賞受賞者講演1つ，国際セッション1つを申請するとの提案があり，了承された。

4. 企画・行事委員会

なし.

5. 庶務委員会

6. 広報委員会

竹内委員長より，資料に基づき，会員の叙勲等の掲載についての提案があり，会員活動（叙勲など）を会報等で今後掲載することとし，知らせた情報があれば，自薦でも他薦でも広報委員会宛に連絡をもらうように次号会報でアナウンスすることとした。

7. 国際関係委員会

なし.

8. 表彰委員会

国友委員長より，会長が推薦する選考委員として山本拓氏と渡辺美智子氏を推薦したいという提案があり，承認された。

9. その他

なし.

2015 年度事業計画

(2015. 4. 1～2016. 3. 31)

I. 出版編集事業

1. 欧文誌の発行
欧文誌 2 号 [Vol. 45 No. 1 (6 月), No. 2 (12 月)] を発行する。
2. 和文誌の発行
和文誌 2 号 [第 45 巻シリーズ J 第 1 号 (9 月), 第 2 号 (3 月)] を発行する。
3. 会報の発行
No. 163 (4 月), No. 164 (7 月), No. 165 (10 月), No. 166 (1 月) を発行する。

II. 内外学界交流事業

1. 日本統計学会第 82 回大会の開催
2015 年 9 月 6 日～9 日の 4 日間にわたり、岡山大学津島キャンパスにおいて開催する。
統計関連学会連合大会の一環として開催する。
2. 春季集会の開催
2016 年 3 月上旬に第 10 回春季集会を開催する。
3. 研究部会の活動
2016 年度より活動を開始する部会を募集する。
4. 研究分科会の活動
現在、活動中の以下の分科会に加え、新規に活動を開始する分科会を随時募集する。
「スポーツ統計分科会」(田村義保主査：2009 年 6 月発足, 2017 年 5 月終了予定)
「金融の計量リスク管理分科会」(塚原英敦主査：2009 年 9 月発足, 2017 年 8 月終了予定)
「統計教育分科会」(藤井良宜主査：2010 年 12 月発足, 2014 年 11 月終了予定 [継続予定])
「計量経済・計量ファイナンス分科会」(西山慶彦主査：2010 年 12 月発足, 2014 年 11 月終了予定 [継続予定])
5. 「統計検定」の実施
日本統計学会が主体となり、(財) 統計研究会および (財) 統計情報研究開発センターとの共催事業として「統計検定」を実施する。
6. 統計関連学会連合の事業推進に協力する。

7. 国際学会、国際シンポジウムに協力する。
8. 会員に有益と思われる学会やシンポジウムを後援する。

III. 会員関係事業

1. 賞の授与
学会活動の活性化促進のため、以下の賞を会員等に授与する。
第 20 回日本統計学会賞
第 11 回日本統計学会統計活動賞
第 11 回日本統計学会統計教育賞
第 9 回日本統計学会研究業績賞
第 8 回日本統計学会出版賞
第 29 回日本統計学会小川研究奨励賞
2. 各種委員会の活動
年 2 回社員総会を開催する。
年 4 回理事会を開催する。
年 1 回役員協議会を開催する。
その他の各種委員会を適宜、開催する。
3. 広報活動の充実
メーリングリストの使用やホームページの充実により、各種情報発信を促進する。
英文のホームページを充実させる。
4. 入会者の拡大
春季集会等の機会を利用し、若手の研究者の拡大を促進する。
統計検定の合格者を対象とし、統計利用者の拡大を促進する。
准会員 (仮称) について検討する。
- IV. その他
1. JSS-Springer 出版計画の推進
2. 統計科学百科事典の翻訳事業の推進
3. 電子媒体を利用する統計教育の推進・協力

一般社団法人 日本統計学会 2015年度 予算書

(2015年1月31日)
(単位 千円)

	15年度予算	14年度予算	13年度予算	備考
I. 事業活動収支の部	▲ 1,759	▲ 824	▲ 5,349	
一般勘定	1	28	1	
60周年記念基金	▲ 600	▲ 600	▲ 350	出版賞・小川賞以外の副賞、学会活動補助
75周年記念基金	▲ 50	▲ 50	-	出版賞副賞
小川基金会	▲ 110	▲ 200	-	小川基金会は2014年度より予算化
ISI基金	▲ 1,000	0	▲ 5,000	ISI基金は2013年度より管理(実際には2013年度使用せず)
ICP基金	0	0	0	ICP基金は2013年度より管理
学会活動積立金	0	0	0	
1. 事業活動収入	14,145	13,590	13,935	
会費収入	10,900	10,400	10,900	
名誉会員・正会員	10,100	9,600	10,000	
学生会員	200	200	200	
遡及請求分	600	600	700	
賛助法人費	1,000	1,000	890	
団体会員費	280	280	240	
科学研究費補助金	500	500	500	
雑収入	1,465	1,410	1,405	
会誌購読料	700	700	700	
利子収入	15	10	5	
広告収入	700	700	700	
その他	50	0	0	著作権許諾料他
経済学会連合会補助金	0	0	0	
2. 事業活動支出	15,904	14,414	19,284	
印刷費	8,150	7,650	7,670	
会誌(45巻1,2号, 45-No.1,2)	6,800	6,300	6,300	
会報(163-166号)	750	750	750	
名簿印刷費	100	0	20	
その他	500	600	600	会誌・会報の封筒作成等
大会開催費	1,140	1,250	900	
春季集会開催費	600	600	600	
各賞運営経費	390	500	300	懇親会招待,表彰状,副賞(60周年記念基金充当)
出版賞費	50	50	0	75周年記念基金充当
小川賞費	110	-	-	小川基金会充当
その他	100	100	0	賛助会員参加費補助
研究部会費	300	300	300	
研究分科会費	100	100	100	
学会運営会費	270	230	230	
代議員会(社員総会)	70	70	70	
特別委員会	60	20	20	
統計教育委員会	20	20	20	
会誌編集委員会	20	20	20	
理事会	100	100	100	
事務費	280	280	340	
一般事務人件費	40	20	20	
校正編集事務人件費	80	100	170	
発送事務人件費	90	90	80	
事務用品	40	40	40	
事務室借料	0	0	0	
その他	30	30	30	事務員の交通費等
学会事務業務委託費	2,592	2,592	2,592	
通信・郵送費	1,460	1,450	1,560	
会誌送料	600	600	700	
会報送料	450	450	450	
名簿送料	10	0	10	
その他通信・郵送料	400	400	400	
役員旅費補助	150	120	150	
各種分担金	150	150	150	
日本経済学会連合	35	35	35	
国際統計協会ISI	25	25	25	
横幹連合	50	50	50	
統計関連学会連合	40	40	40	
ネットワーク維持費	42	42	42	ドメイン使用料, 学会サーバー委託費, Web名簿維持費
国際交流促進費	200	250	250	海外よりの招聘
名簿作成積立金	0	0	0	
統計検定関係費	0	0	0	
租税公課	70	0	0	
世界統計会議 (ISI) 派遣補助	1,000	0	5,000	ISI基金目的使用
II. 投資活動収支の部	0	0	0	
投資活動収入	0	0	0	
投資活動支出	0	0	0	
III. 予備費	3,000	3,000	3,000	

8. 臨時社員総会報告

日時：2015年3月7日（土）18：30～19：40

場所：統計数理研究所 2階 会議室 2 D208

出席者：国友直人会長，代議員：鎌倉稔成，岩崎学，大森裕浩，栗木哲，西郷浩，佐藤美佳，竹内光悦，竹村彰通，田村義保，中野純司，樋口知之，福井武弘，舟岡史雄，美添泰人，吉田朋広，渡辺美智子（以上17名，委任状提出5通，議決権行使書10通）（オブザーバー：三分一史和，大野忠士，酒折文武）

冒頭，国友会長より定足数確認後に開会宣言がなされ，オブザーバー3名の出席が承認された。また，国友会長より議事録署名人として栗木哲，中野純司両代議員が提案され，承認された。

審議事項

＜第1議案＞ 研究分科会継続に関する件－研究分科会規程第4条

国友会長から，資料に基づき，「計量経済・計量ファイナンス分科会」（主査：西山慶彦会員，2014年11月終了）の主査を福重元嗣会員に交代して継続すること，および「統計教育分科会」（主査：藤井良宜会員，2014年11月終了）を継続することについて提案があり，承認された。

＜第2議案＞ 学会賞各賞の選考委員に関する件－学会賞各賞規程「選考方法」

国友会長から，学会賞各賞について，会長が推薦する選考委員として山本拓会員および渡辺美智子会員の推薦があり，承認された。

報告事項（理事会報告）

1. 2015年度事業計画

鎌倉理事長より，資料に基づき，2015年度事業計画について報告があった。

2. 2015年度予算

鎌倉理事長より，資料に基づき，2015年度予算について報告があった。

3. 会員の入退会（回覧）

鎌倉理事長より，回覧資料に基づき，会員の入退会について報告があった。

4. その他

なし。

報告事項（委員会報告）

1. 常設委員会の委員長および委員の交代および追加について

三分一理事より，常設委員会（国際委員，大会委員）の委員の交代について報告があった。

2. 臨時委員会の設置について

鎌倉理事長より，MOOC委員会の設置について報告があった。

3. 2015年連合大会について

鎌倉理事長より，2015年連合大会について報告があった。

4. 2015年春季集会について

鎌倉理事長より，2015年春季集会について報告があった。

5. 日本統計学会各賞について

鎌倉理事長より，日本統計学会各賞の推薦締切りが2015年4月3日であるとの報告があった。

6. その他

なし。

報告事項（その他）

1. 学会活動特別委員会

報告事項なし（竹村委員長）。

2. 学会組織特別委員会

田村委員長より、将来の会員制度・会費制度について議論中であり、近いうちに意見の取りまとめを行うとの報告があった。

3. 統計教育委員会

竹内委員長から、資料に基づき、2014年度活動報告、ならびに2015年度の活動計画が示された。

4. ベイズ分析研究分科会（2010年11月発足、繁樹算男主査）

三分一理事より、繁樹主査の提出した資料に基づき、2014年度活動報告が示された。

5. 計量経済・計量ファイナンス分科会（2010年12月発足、西山慶彦主査）

三分一理事より、西山主査の提出した資料に基づき、2014年度活動報告が示された。

6. 次回日程等

国友会長より、2015年度定時社員総会が2015年6月に中央大学で開催される予定であることが報告された。

7. その他

なし。

9. 被選代議員会報告

日時：2015年3月7日（土曜日）19：40～20：30

場所：統計数理研究所 2階 会議室2

出席者：国友直人（会長、被選代議員）被選代議員：足立浩平、岩崎 学、内田雅之、大森裕浩、大屋幸輔、鎌倉稔成、川崎能典、黒住英司、坂本 亘、清水 誠、竹内光悦、竹村彰通、谷崎久志、田畑耕治、田村義保、中野純司、西山慶彦、樋口知之、福井武弘、藤越康祝、美添泰人、吉田朋広、渡辺美智子（以上、24名）、三分一史和、酒折文武（庶務理事、選挙管理委員）

冒頭、国友会長より被選代議員の出席者および選挙管理委員の確認後、開会宣言がなされた。また、国友会長より議事録署名人として栗木哲、中野純司、両被選代議員が提案され、承認された。

審議事項

<第1議案> 会長候補者の選出に関する件－会長選挙規程第3条

三分一庶務理事より、資料に基づき、被選代議員会による会長候補者選出方法について（会長選挙規程第3条より抜粋）および歴代会長について説明された後、提出された会長候補者推薦理由書が提示された。投票の結果、岩崎学被選代議員を会長候補者とすることに決定した。

<第2議案> 被選理事長の選出に関する件－役員選任規程第2条

三分一庶務理事より、資料に基づき、被選代議員会による被選理事長の選出方法について（役員選任規程第2条より抜粋）について説明があり、被選代議員名簿が提示された。投票の結果、中野純司被選代議員を被選理事長とすることに決定した。

10. 修士論文・博士論文の紹介

最近の修士論文・博士論文を原稿到着順に紹介いたします。(1) 氏名 (2) 学位の名称 (3) 取得大学 (4) 論文題名 (5) 主査または指導教員 (6) 取得年月の順に記載いたします。なお、(6) 取得年月の記載のないものはすべて2015年3月です。(敬称略)

修士論文

- (1) 新井和馬 (2) 修士 (理学) (3) 東京理科大学 (4) On Test of the Log Marginal Model in Two-way Contingency Tables (5) 富澤貞男
- (1) 猪又和樹 (2) 修士 (理学) (3) 東京理科大学 (4) Asymmetry measure based on Entropy for Analysis of Square Contingency Tables with Nominal Categories (5) 富澤貞男
- (1) 小寺優輝 (2) 修士 (理学) (3) 東京理科大学 (4) Improvement of A Measure of Departure from Average Symmetry for Square Contingency Table with Ordered Categories (5) 富澤貞男
- (1) 酒井航太郎 (2) 修士 (理学) (3) 東京理科大学 (4) Symmetry, Quasi-symmetry and Marginal Homogeneity of Conditional Probability for Square Contingency Tables (5) 富澤貞男
- (1) 須藤暢也 (2) 修士 (理学) (3) 東京理科大学 (4) On Test of Linear Diagonals-Parameter Symmetry Model in 3×3 Contingency Tables (5) 富澤貞男
- (1) 鷲見拓哉 (2) 修士 (理学) (3) 東京理科大学 (4) Decomposition of Symmetry using Cumulative Linear Diagonals-Parameter Symmetry for Square Contingency Tables (5) 富澤貞男
- (1) 中根弘貴 (2) 修士 (理学) (3) 東京理科大学 (4) Restricted Normal Distribution Type Symmetry Model for Square Contingency Tables with Ordered Categories (5) 富澤貞男
- (1) 長縄真学 (2) 修士 (理学) (3) 東京理科大学 (4) Extended linear asymmetry model and decomposition of symmetry for square contingency tables (5) 富澤貞男
- (1) 箕輪大介 (2) 修士 (理学) (3) 東京理科大学 (4) Measures of Departure from Marginal Homogeneity based on Entropy for Square Contingency Tables with Nominal Categories (5) 富澤貞男
- (1) 山崎 駿 (2) 修士 (理学) (3) 東京理科大学 (4) Test and Measure on Difference of Marginal Homogeneity between Several Square Tables (5) 富澤貞男
- (1) 田崎達郎 (2) 修士 (水産学) (3) 鹿児島大学 (4) 統計的手法を用いた八代海における赤潮の発生予測 (5) 庄野 宏
- (1) 河内もも (2) 修士 (理学) (3) 中央大学 (4) 時系列モデルにおける変数選択問題 (5) 酒折文武
- (1) 畠山 響 (2) 修士 (理学) (3) 中央大学 (4) 隠れマルコフモデルにおける状態数選択 (5) 酒折文武
- (1) 浅香俊成 (2) 修士 (理学) (3) 中央大学 (4) SCAD 正則化法による非線形回帰モデリング (5) 小西貞則
- (1) 西 真人 (2) 修士 (理学) (3) 中央大学 (4) L_p ノルム正則化法による回帰モデリング (5) 小西貞則
- (1) 渡部 亮 (2) 修士 (理学) (3) 中央大学 (4) Elastic net によるスパースロジスティック回帰と判別 (5) 小西貞則
- (1) 北川幸平 (2) 修士 (工学) (3) 大阪府立大学 (4) 基底関数展開法に基づく混合非線形回帰モデル (5) 指導教員：川野秀一 (主査：栗木進二)
- (1) 田尻秀人 (2) 修士 (工学) (3) 熊本大学 (4) 一般行列と分散分析 (5) 高田佳和

- (1) 山城幸祐 (2) 修士 (工学) (3) 熊本大学
(4) 誤差項が等分散でない回帰分析について
(5) 岩佐 学
- (1) 大塚 優 (2) 修士 (理学) (3) 筑波大学
(4) Large covariance estimation for a spiked factor
model (5) 青嶋 誠
- (1) 箕輪一輝 (2) 修士 (理学) (3) 筑波大学
(4) 高次元平均ベクトルの検定とその最適性について
(5) 青嶋 誠
- (1) 村山 航 (2) 修士 (理学) (3) 筑波大学
(4) Reconstruction of a low-rank matrix for high-
dimensional data (5) 青嶋 誠
- (1) 大澤 巧 (2) 修士 (経済学) (3) 東京大
学 (4) 階層バイズモデルを用いた人口予測
(5) 大森裕浩
- (1) 李 勝恵 (イ ス ン ヘ) (2) 修士 (経済
学) (3) 東 京 大 学 (4) Realized Stochastic
Volatility model with Skewed-normal distributed
error (5) 大森裕浩
- (1) 松月 強 (2) 修士 (数理科学) (3) 南山
大学 (4) SN 比の信頼区間導出に関する支援
ソフトの研究 (5) 松田真一 (6) 2015年2月
- (1) 信田真佑 (2) 修士 (数理科学) (3) 南山
大学 (4) 正準相関分析と包絡分析法に関する
研究 (5) 松田真一 (6) 2015年2月
- (1) 野口良輔 (2) 修士 (数理科学) (3) 南山
大学 (4) SGS アルゴリズムとグラフィカルモ
デリングの支援ソフトに関する研究 (5) 松田
真一 (6) 2015年2月
- (1) 早川由宏 (2) 修士 (数理科学) (3) 南山
大学 (4) 分散が一様でない正規多標本モデル
におけるすべての平均相違の多重比較法 (5)
白石高章 (6) 2015年2月
- (1) 大野 剛 (2) 修士 (工学) (3) 慶應義塾
大学 (4) 因果効果に対するセミパラメトリッ
ク推定量の構成法 (5) 南美穂子
- (1) 小泉健太 (2) 修士 (工学) (3) 慶應義塾
大学 (4) 株主配当金問題における最適境界の
統計的推定 (5) 白石 博
- (1) 下り藤亮太 (2) 修士 (理学) (3) 慶應義
塾大学 (4) 空間点過程データの残差解析 (5)
清 智也
- (1) 田曾忠将 (2) 修士 (工学) (3) 慶應義塾
大学 (4) 欠測を含む線形回帰モデルに対する
多重代入法とその精度評価 (5) 南美穂子
- (1) 中野彰人 (2) 修士 (工学) (3) 慶應義塾
大学 (4) 習字データの解析 – 見本との類似性
の定量化 – (5) 清 智也
- (1) 中本和基 (2) 修士 (工学) (3) 慶應義塾
大学 (4) 多変量代替 t -分布族に対するホロミ
ック勾配法 (5) 清 智也
- (1) 橋本研一 (2) 修士 (工学) (3) 慶應義塾
大学 (4) コピュラモデルの情報幾何学的解釈
(5) 清 智也
- (1) 五十嵐千人 (2) 修士 (情報科学) (3) 北
海道大学 (4) 同時分布値データの解析法に関
する研究 (5) 水田正弘
- (1) 高倉潤也 (2) 修士 (情報科学) (3) 北海
道大学 (4) 空間線量率データを用いた除染時
期の推定に関する研究 (5) 水田正弘
- (1) 高畑優修 (2) 修士 (情報科学) (3) 北海
道大学 (4) 関数データ集合に対する集約的解
析法について (5) 水田正弘
- (1) 木田恒太 (2) 修士 (経済学) (3) 北海道
大学 (4) 有限混合分布モデルを用いた判別分
析に関する研究 (5) 柿沢佳秀
- (1) 金津弘行 (2) 修士 (理学) (3) 早稲田大
学 (4) プロセスリスクを考慮したコア預金モ
デル (5) 清水泰隆
- (1) 大竹杏奈 (2) 修士 (理学) (3) 東京理科
大 学 (4) Testing Equality of Mean Components
with Two-step Monotone Missing Data (5) 瀬 尾
隆
- (1) 瀬野祐太郎 (2) 修士 (理学) (3) 東京理
科 大 学 (4) A Test for Subvector of Mean with
Missing Observations (5) 瀬 尾 隆
- (1) 藤原 歩 (2) 修士 (理学) (3) 東京理科
大 学 (4) Testing Equality of Two Mean
Subvectors with Missing Observations (5) 瀬 尾
隆

- (1) 三ツ井誠 (2) 修士 (理学) (3) 東京理科大学 (4) Likelihood Ratio Test Statistic for Blocked Compound Symmetry Covariance Structure and Its Asymptotic Expansion (5) 瀬尾 隆
- (1) 八木文香 (2) 修士 (理学) (3) 東京理科大学 (4) Tests for Mean Vectors Based on Monotone Missing Data (5) 瀬尾 隆
- (1) 山田雄紀 (2) 修士 (理学) (3) 東京理科大学 (4) Estimation of Misclassification Probability for a Distance-based Classifier in High-dimensional Data (5) 瀬尾 隆

博士論文

- (1) Junaida Slaiman (2) 博士 (情報工学) (3) 九州工業大学 (4) Heavy Precipitation Forecasting using the Combination of Local and Global Modes with Application to Malaysian Rainfall (5) 廣瀬英雄
- (1) 三角俊裕 (2) 博士 (理学) (3) 中央大学 (4) Nonlinear Regression Modeling for Longitudinal Data and its Applications (5) 小西貞則
- (1) 陳 虹諺 (Chen, Hun-yen) (2) 博士 (農学) (3) 東京大学 (4) Statistical modeling of marine community diversity, soil fertility, and food safety testing (海洋群集の多様性, 土壌肥沃度, 食品安全性テストの統計的モデリング) (5) 岸野洋久
- (1) 廣瀬要輔 (2) 博士 (経済学) (3) 東京大学 (4) Essays on Structural Estimation of Auction Models (5) 大森裕浩
- (1) 土山 玄 (2) 博士 (文化情報学) (3) 同志社大学 (4) 計量文献学による『源氏物語』の成立に関する研究 (5) 村上征勝
- (1) 五十嵐岳 (2) 博士 (経済学) (3) 北海道大学 (4) Essays on some nonparametric boundary-bias-free density estimators (5) 柿沢佳秀
- (1) 中水流嘉臣 (2) 博士 (理学) (3) 東京理科大学 (4) On multiple comparison procedures for mean vectors and partial covariance matrices in clinical trials (臨床試験における平均ベクトルおよび部分共分散行列の多重比較法について) (5) 瀬尾 隆

11. 会員の活動に関する会報記事の募集について

竹内 恵行 (広報担当理事)

かねてより、会員の諸活動に関する広報が乏しいことが理事会で話題となり、学会の広報活動について検討、議論を重ねてまいりました。その結果、会員の皆様の諸活動を積極的に会報等で掲載することとなりました。

つきましては、会員の叙勲・受章、各種財団等が創設した賞（京都賞、日経図書文化賞など）の

受賞をはじめとした会員の活動で、会報に掲載したい情報がございましたら、自薦、他薦に関わらず、広報委員会 (koho@jss.gr.jp) 宛にご連絡下さい。

ご本人のご了解を頂いた上で、会報記事として掲載させていただきます。

12. 学会事務局から

学会費払込のお願い

2015年度会費の請求書が会員のお手元に届いていることと思います。会費の納入率が下がると学会会計に大きく影響いたします。速やかな納入にご協力をお願い申し上げます。また便利な会費自動払込制度もご用意しています。次の要領を参照の上、こちらもご活用下さい。

学会費自動払込の問合せ先

学会費自動払込問合せの旨とともに、氏名と住所を以下にお伝えください。手続きに必要な書類が送付されます。

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-6
能楽書林ビル5F
(公財)統計情報研究開発センター内
日本統計学会担当
Tel & Fax : 03-3234-7738
E-mail : shom@jss.gr.jp

訃報

次の方が逝去されました。謹んで追悼の意を表し、御冥福をお祈り申し上げます。

高垣 東一郎 会員

入会承認

安藤宗司, 嶋村海人, 高梨泰彦, 高橋利之, 田中紀子, 本田啓介, 株式会社サイカ, 公益財団法人日本数学検定協会 (敬称略)

退会承認

小野賢治, 桂昭政, 久保木久孝, 須川和明, 高木新太郎, 中山直人, 西田英郎, 丹羽明彦, 畠中道雄, 丸山健夫 (敬称略)

長期連絡不能により退会したとみなされた会員

井上洋, 大濱巖, 小川嘉正, 金子治平, 川本貴之, 熊谷敦也, 倉知善行, 栗田匡相, 児玉伸雄, 小林広嗣, 島本武嗣, 染井大輔, 竹原浩太, 樽見晋平, 都築貴文, 戸田光一郎, 橋本翔, 原田明信, 藤田静, 舞原寛祐, 山田信一, 林長青, 若林研吾, 渡邊綾 (敬称略)

現在の会員数 (2015年4月1日)

名誉会員	17名
正会員	1,418名
学生会員	30名
総計	1,465名
賛助会員	18法人
団体会員	7団体

13. 投稿のお願い

統計学の発展に資するもの、会員に有益であると考えられるものなどについて原稿をお送りください。以下のような情報も歓迎いたします。

- 来日統計学者の紹介
訪問者の略歴, 滞在期間, 滞在先, 世話人などをお知らせください。
- 博士論文・修士論文の紹介

- (1) 氏名 (2) 学位の名称 (3) 取得大学 (4) 論文題名 (5) 主査または指導教員 (6) 取得年月 をお知らせください。
- 求人案内 (教員公募など)
- 研究集会案内
- 新刊紹介
著者名, 書名, 出版社, 税込価格, 出版年月を

お知らせください。紹介文を付ける場合は100字程度までとし、主観的な表現は避けてください。

できるだけ e-mail による投稿、もしくは、文書ファイル（テキスト形式）の送付をお願い致します。

原稿送付先：

〒560-0043 大阪府豊中市待兼山町1-7

大阪大学大学院経済学研究科

竹内 恵行 宛

E-mail：koho@jss.gr.jp

（統計学会広報連絡用 e-mail アドレス）

- 統計学会ホームページ URL：
<http://www.jss.gr.jp/>
- 統計関連学会ホームページ URL：
<http://www.jfssa.jp/>
- 統計検定ホームページ URL:
<http://www.toukei-kentei.jp/>
- 住所変更連絡用 e-mail アドレス：
meibo@jss.gr.jp
- 広報連絡用 e-mail アドレス：
koho@jss.gr.jp
- その他連絡用 e-mail アドレス：
shom@jss.gr.jp